

愛知県医師連盟ニュース

発行所
愛知県医師連盟
〒460-0008
名古屋市中区栄4の14の28
愛知県医師会館内
TEL052(251)2500

愛知県医師連盟の医政活動について

愛知県医師連盟は、選挙活動と医政活動の2本柱を中心に活動しています。今年1月～6月の活動を振り返りますと、選挙関係としては2月の愛知県知事選挙に続き、4月には愛知県議会議員選挙が施行され、当連盟が支援した候補者の多くがめでたく当選されました。一方、医政活動につきましては3月21日、愛知県医師会館において日医連医政活動研究会を開催し、今枝宗一郎代議士と大輪参与からご講演を頂きました。

また、来年7月の参議院議員通常選挙に日医連から推薦決定している自見はなこ先生も、愛知県での活動を開始していますのでその内容や、本年度予算が第一回執行委員会で承認されましたので併せてご紹介いたします。



ご挨拶

愛知県医師連盟
委員長 柵木 充明

(医政活動研究会でのご挨拶の内容)

今日は、日医連の医政活動研究会という事です。愛知県医師連盟ではなく、日本医師連盟が全国でこのような会を開催しており、その一環として愛知県で行うことになりました。従来は、東京の日医会館と各地方においてブロック単位で開催されておりましたが、もっと地方から声を聞かなくてはいけない、或いは医政活動の大切さを会員の皆さんに知ってもらわなければいけないという事で、今年から各県で会を開催することになりました。日医連からは大枚の補助をいただいて開催しています。

今朝の新聞を見ましても、「安保法制の改革」というのが大きく出ておりました。昨年末の選挙によって自民党、公明党との連立政権が信任を受けたということで、かなり自信を持って日本という国の形を変えようと、様々な分野で改革が行われている感じがいたしま

す。外交、防衛のみならず、農政、エネルギー、その他にも社会保障といった点でも次から次へと、我々がフォロー出来ないくらいにドンと国の形が変わろうとしています。

本来であれば、折角、今枝代議士に忙しいところを来て頂きましたので、「安倍政権が日本をどこへ連れて行くのか、今枝宗一郎から見た国会報告」という事でやって頂きたいと思いましたが、これはあくまで医師連盟ですので医療を中心に今枝代議士には「国会等での活動や陳情活動の重要性について」という別次元のお話をお願いしました。先程言いましたことにつきましては、後日、ご報告を頂き、また彼の感想をお聞きしたいと思っております。

そして日医連医政活動研究会のメンバーであり当連盟の大輪参与からも「健康医療分野で加速する規制改革に対する医政活動について」というテーマでお話を頂きます。

先生方も地元にお帰りになって、この話を地区の先生方にしっかりとお伝え頂きたいと思えます。

また、今日は自見はなこ先生にお越し頂いております。これは、来年7月には参議院議員通常選挙があり、日本医師連盟の統一候補として自見はなこ先生が決まりましたのでご

挨拶を頂くためのものです。

今はまだそんなに大きな活動はしておりませんが、来年になりますと「自見はなこ」「自見はなこ」と念仏のように唱えて頂き、前回立候補した羽生田先生の時は25万票でしたので、今度は最低でも30万票は行こうと、大きく目標を立てております。兎も角、頑張っ て自見はなこ先生を支援していきたいと思 います。

今日ご出席の先生方には、「自見はなこ」というお名前を是非覚えておいて頂きたいという事を申し上げます、会を始めるにあたっての私の御挨拶とさせていただきます。本日は有難うございました。



ご挨拶

日本医師連盟
参与 自見 はなこ

(医政活動研究会でのご挨拶の内容)

私は自見英子（じみはなこ）と申します。

本日は、愛知県医師連盟の医政活動研究会の場でご挨拶をさせて頂く機会を与えて頂き、心から感謝申し上げます。誠に有難うございます。

また愛知県医師連盟の先生方には、今年の2月にご推薦を頂きまして、柵木委員長をはじめここにお見えになる先生方には重ねて御礼を申し上げます。本当に有難うございます。

本日はお時間を頂きましたので、ご挨拶をさせていただきます。内容に関しましては、お手元にある日本医師連盟ニュースと重なる部分があるかとは思いますが、1巡目ということもあり、自己紹介となぜ政治を志したのかということをお自身の言葉でお伝えしたいと考えています。

昨年の11月25日になりますが、日本医師連盟執行委員会におきまして、平成28年夏に行われる参議院議員比例代表（全国区）選挙に日本医師連盟から推薦を頂いたところでございます。いまだかつて私のような女性で、勤務医で、30代後半というものがこの

様な大役を仰せつかった事は無いものですから、私に与えられた役割は非常に大きいと日々緊張し、以後活動を続けております。

私は、正に全国津々浦々、女性医師も勤務医も含む医療機関、そして幅広い医療関係者の全てが一致団結し、医療界として大きな一枚岩となる時だと考えて、そのお役に立ちたいと今回の公募に応募いたしました。

私は昭和51年2月、母の実家である長崎県佐世保市で生まれました。本日、参加して頂いている先生の中には、第2次世界大戦を経験された方がいるかも知れませんが、私の母方の祖父は海軍で空母飛龍の軍医長をしておりました。その時に、空母自体は真珠湾攻撃に参戦し、ミッドウェイ海戦の中で沈没していくわけですが、終戦の頃には東南アジアの1つの諸島に流れ着いていました。祖父はその諸島において、兵士に対し、医療行為を施していました。当時、流行っていたマラリアに対して、兵士のみならず住民にもキニーネを処方していたことがあり、戦後、本来であれば諸々の事から戦犯を免れず生きて帰ることはなかったのかもしれないのですが、地元の住民が「この医者は私たちを助けてくれた命の恩人だ」と嘆願を出してくれ、そのおかげで生きて長崎県の佐世保に戻り、開業いたしました。

戦後に生まれたのが、私の母になります。私の祖父は、大変やさしい人柄で、戦争の悲惨さを母に語ることはございませんでした。ただ、いつも母に「お国のために働きなさい」「公のために頑張っ て働きなさい」と言って、私の母を育てました。そして私も、母からこの言葉を聞いて育って参りました。

私の父は九州大学の勤務医でございました。私の生まれは佐世保ですが、その後まもなくして北九州市小倉に移り、幼少期は小倉で過ごしております。小学校2年の時になりますが、私の父が勤務医から政治家へという事で大きく方向転換を致しましたので、以後30年間、政治と密接な家庭環境で育って参りました。高校はアメリカのボストンに留学をしております。

私はその時の経験から、将来は国際機関で働きたいといった思いを持っており筑波大学国際関係学類に入学し、卒業をしております。卒業間際になり、やはり自分の叔父や叔母の嫁いだ家のように、自分も「直接人に触れて

役に立てる職業に就きたい」「医師になりたい」との思いを強くし、両親に大変無理を言って東海大学医学部学士編入学で医学部に入学いたしました。

医学部では有意義な学生生活を過ごす事が出来、東海大学は大変好きな母校であります。将来は、叔父や叔母の嫁いだ家のように開業医になりたいという夢を持っておりましてので内科研修を2年したのち、1年間内科後期研修を東海大学の関連病院で行い、認定内科医を取得しました。

その後、小児科に進もうと思いましたが、東海大学は神奈川県で両親の居る東京に関連病院の小児科が無いという事もあり、また当時の東海大学医学部長の黒川清先生のご縁もあり東京大学小児科に入局し、以後関連病院で勤めております。

私は両親に大変無理を言い、医学部に進学させてもらい経済的にも負担をかけてしまったなあとの思いから、どこかのタイミングで両親に恩返しをしたいと考えておりました。その思いがございましたので、小児科の専門医が取れましたタイミングで教授と医局長と診療科の部長に相談をし、午前は外来をして、午後は父が当時は金融庁にいましたので政治のお手伝いをし、週に1回は救急当直をする生活を4~5年間しておりました。

この4~5年の生活の間で色々な事を感じる機会がございました。それまでは勤務医としては病院に真空パックをされたような日々でございました。小児科ですので、朝来て採血をし、外来に行って、病棟に来て、当直をして、また明けて外来をして、というような先生方と同じような勤務医の生活をしておりました。

その当時は、落ち着いてじっくりと考える時間ありませんでした。ところが、自分が一旦政治の世界の手伝いをして陳情を受ける側の立場になって、初めて私たち勤務医が医療を提供できる体制があるというのは決して当たり前のものでなく、こういった地元の先生方の地域の医師会の活動であるとか、中央での日本医師会の先生方の活動に底支え頂いて、初めて私たち勤務医も医療を提供できる体制があるのだと気付くことが出来ました。

本来であれば、父が一昨年夏に現職を終えましたので、私も今年の春から虎の門病院の小児科の常勤に戻ろうと思っておりました

が、1つ大変印象に残る出来事がございました。それは虎の門病院で当直をしている時の事です。私は日常の当直の業務をしているだけではございましたが、それは突然に起こった出来事でした。

アメリカのハワイにいる一人の女性(患者のお母さま)から国際電話で医療相談がございました。通常なら、ナースが受けて不必要なものは医師に回ってこないのですが、英語という事もあるとあって、ナースから「先生、英語なのでよろしくお願ひします」と、電話が回ってきました。

聞けば、その女性の12~3才のお子さまが東京で1週間のホームステイをしていて、腹痛になって泣いてハワイのお母さまに電話をしてきたという事でした。お母さまは大変心配になり、ハワイから日本の病院に国際電話を掛けているという状況でありました。お母さまのお話を聞きますと、お子さまの症状は、ウイルス性胃腸炎の典型的な症状でございましたので、水分摂取をどうしたらいいのか、病院に来るタイミングはどうすればいいかなど、症状の経過について一般的な事をご説明したまでの事でもございました。ところが、そのお母さまは、お話のあとに電話の向こう側で大きな声をあげておいおいと号泣されておりました。

私は何か言っただけではいけないことをお伝えしてしまったのか、と思い、そのお母さまに「どうされましたか」とお伺いした時に、そのお母さまが言った一言が私の人生をある意味大きく変えたことになりました。

それは、「私の国の、私が入っている医療保険では、私は直接医者として話す事が出来ない。日本はなんていい国なんだ」とおっしゃいました。その言葉が複雑な気持ちとともに私の胸に重くのしかかりました。

私は小児科医です。例がやや極端かとは思いますが、例えば喘息発作のお子さんが目の前に2人いて、1人に吸入が出来て、1人は吸入が出来ない、それがその親御さんの経済格差によって私たち医療従事者がそれを決めなくてはならない時代が来たら、果たして私は医者としての仕事が出来るとは思えないかと思っておりました。私の答えは明白でした。「そんな時代が来たら、私は良心の呵責で医者としての仕事が出来ない」と強く思いました。

そういったことがあり、私は今回、去年の秋になります、公募が目の前に飛び込んで来た時に、大変若輩者ではございますけれど決意をいたしました。

本日、ここにおられる先生方の日々のご尽力があって、診療でも地域の患者様の健康を守ってくださり、また診療以外の各種医療事業でも地域に深く根ざしておられます。しかも、行政との交わりの中で「街づくり」そのものまでも支えておられる、そういった現状をより幅広く分かりやすい言葉で、国民の方にも伝えていきたい、そして患者さまや他の団体の方の声も医療界に届けられる掛け橋のような存在になりたいと思っております。

全国津々浦々、大変広うございます。先生方から1つ1つ教えて頂きながら、医政活動の重要性を医師のみならず患者様にもしっかりと届くような活動を真摯にして参りたいと

考えております。私のこの様な小さな体で一生懸命回らせて頂いているつもりではございますが、余りにも無力でございます。これからの1年5ヶ月、長いようであつという間だと思っております。

先程、柵木委員長のお言葉にもありました「育てていく」といった気持ちで、ここにおられる先生方には、私の事がある意味、姪っ子だとか、娘だとか、妹だとかいった存在に思っ叱咤激励を頂きたいと思っております。

しっかり務めて参りたいと思っておりますので、今後ともご指導のほどを宜しくお願い申し上げます。

本日は貴重なお時間を頂きまして、誠に有難うございました。

(平成27年3月21日、日医連医政活動研究会の際、ご挨拶された内容を紹介しました)

医政活動研究会 (第1部 講演会の様子)



開会にあたりご挨拶をする柵木委員長



講演する今枝代議士



講演する大輪参与



出馬の決意を話す自見はなこ先生

医政活動研究会 (第2部 懇親会の様子)

第2部では、自見はなこ先生が県医師連盟の役員や地区医師会長らにご挨拶されました。



柵木委員長にご挨拶



山本副委員長と地区医師会長らにご挨拶



加藤参与、樫尾参与と各先生方にご挨拶



伊藤参与にご挨拶



榎原参与と地区医師会長らにご挨拶



川上常任執行委員にご挨拶



豊川市医師会の大石会長にご挨拶



地区医師会長らにご挨拶



吉田参与、岩瀬参与、樋口参与らにご挨拶



野田参与と地区医師会の先生にご挨拶



安城市医師会の藤井会長にご挨拶



樫尾参与と地区医師会長らにご挨拶



名古屋市医師会の西村理事にご挨拶



緑区医師会の柴田会長にご挨拶



野田参与にご挨拶

愛知県知事選挙の結果

愛知県知事選挙は本年1月15日(木)告示、2月1日(日)投開票の日程で行われました。候補者には、自由民主党愛知県支部連合会を始め、民主、維新、公明、生活、次世代の各党が推薦する現職の大村ひであき候補と、共産党が推薦する新人の小松民子候補との一騎打ちとなりました。

当連盟の柵木委員長は、政治団体「新あいち2020の会」の会長に就任し、各演説会場に集まった有権者に対し、大村ひであき候補への支援を訴え続けました。

その結果、現職の大村候補は相手候補者に対して約4倍の得票を得て、見事再選を果たす事が出来ました。

愛知県内の有権者数、投票率

有権者数 5,880,350 (人)

投票率 34.93 (%)

候補者名	得票数	党派
大村 秀章	1,629,147	無所属(自民連・民主・維新、公明、生活、次世代推薦)
小松 民子	391,308	無所属(共産党推薦)



大村知事と再選を喜ぶ柵木委員長

愛知県県議会議員選挙の結果

愛知県議会議員選挙は本年4月3日(金)告示、4月19日(日)投開票の日程で行われました。

当連盟は、地区医師連盟から推薦依頼があった候補者について常任執行委員会に諮り、自民党候補者17名、民主党候補者9名、公明党候補者1名、無所属候補者2名を推薦決定し、推薦状をお渡しし支援してきました。

結果は、下記の通り27名が当選されました。

当連盟が推薦した候補者の当落状況

選挙区	定数	候補者名	党派	備考
千種区	2	つじ 秀樹	(自)	◎
		黒田 太郎	(民)	◎
東区	1	政木 りか	(自)	◎
北区	3	松川こうめい	(自)	◎
		塚本 久	(民)	◎
西区	2	田中やすひこ	(自)	◎
		中堀 隆一	(民)	●
中村区	2	寺西むつみ	(自)	◎
中区	1	ますだ裕二	(自)	◎
昭和区	2	谷口 知美	(民)	◎
瑞穂区	2	かわしま太郎	(自)	◎
		高木 浩司	(民)	◎
中川区	3	西川 厚志	(民)	◎
		稲本 和仁	(自)	◎
港区	2	直江 弘文	(自)	◎
		安井 伸治	(民)	◎
守山区	2	南部ふみひろ	(自)	◎
緑区	3	渡辺のぼる	(自)	◎
		おか 明彦	(公)	◎
名東区	2	筒井タカヤ	(自)	◎
		富田 昭雄	(民)	◎
天白区	2	須崎 かん	(自)	◎
		水谷 満信	(民)	◎
稲沢市	1	久保田浩文	(自)	◎
豊川市	3	小林いさお	(自)	◎
		藤原ひろき	(自)	◎
		野中 泰志	(無)	●
蒲郡市	1	ひだ 常年	(自)	◎
新城・北設楽	1	みねの 修	(自)	◎

(自)は自民党、(民)は民主党
(公)は公明党、(無)は無所属
備考欄の、◎は当選者。●は落選者

自見はなこ先生、当県で活動を開始

平成28年7月に行われる参議院議員通常選挙の比例代表候補に日医連から推薦決定している自見はなこ先生は5月29日、時間の都合上、全ての地区をまわることは出来ませんでしたが、愛知県内各地区で活動を行いました。

当日の午前中は、名古屋市医師連盟の杉田委員長のご案内で、名古屋市内の中村区、中区、東区、千種区、名東区、守山区、北区、西区の医師会長の医療機関に、午後は春日井市、一宮市、豊田加茂、岡崎市、豊橋市の各医師会館や医療機関等に赴き、医師会長や連盟委員長等に決意などを述べられました。

この活動状況につきましては、写真で紹介いたします。



名古屋市医師連盟の杉田委員長にご挨拶



中村区医師会の古山会長にご挨拶



中区医師会の森会長にご挨拶



東区医師会の洪会長にご挨拶



千種区医師会の足立会長にご挨拶



名東区医師会の伊藤会長にご挨拶



守山区医師会の荒川会長にご挨拶



北区医師会の山根会長にご挨拶



西区医師会の龍華会長にご挨拶



榎原参与と春日井市医師会の福井会長らにご挨拶



一宮市医師会の野村会長にご挨拶



豊田加茂医師会の野場会長にご挨拶



豊田加茂医師会の渡邊副会長にご挨拶



豊田加茂医師会の伊藤副会長にご挨拶



豊田加茂医師会の山元理事にご挨拶



岡崎市医師会の小森会長にご挨拶



岡崎市医師連盟の村山委員長にご挨拶



市川会計責任者にご挨拶



豊橋市医師会の権田会長にご挨拶



豊橋市医師会の安井副会長にご挨拶



豊橋市医師会の山本副会長にご挨拶